

エゾシカの生体長距離輸送実証モデル事業の実施について（概要）

1 事業の背景・目的

「囲いわな」により生きたまま捕獲したエゾシカが、流通事業者等から高い評価を得ているにもかかわらず、廃棄処分となっている場合があることから、生体長距離輸送実証モデル事業を行い、エゾシカの有効活用の促進を図る。

2 捕獲場所及び輸送先等

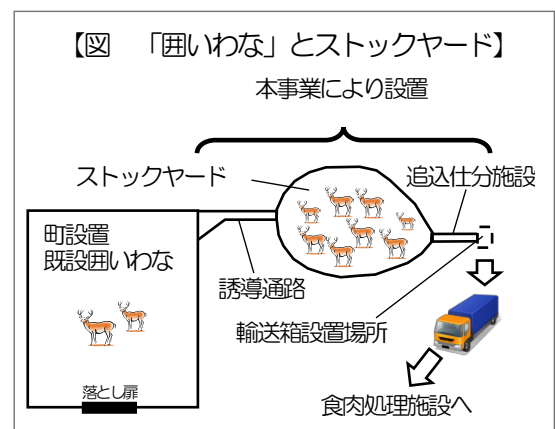
捕獲場所	捕獲期間	輸送距離
中川町	H27.12.14~H28.2.29	約 350km
浦河町	H28.10.20~H29.1.13	約 370km

輸送先	斜里町（エゾシカ食肉事業協同組合（株知床エゾシカファーム））
-----	--------------------------------

3 実施内容

市町村の囲いわなで捕獲したエゾシカを対象に、次の試験を実施

- (1) スtockヤード実証試験
 - ・一度に輸送できる個体数を増やすためにStockヤードを設置
- (2) 生体長距離輸送試験
 - ・Stockヤードから輸送箱に追い込み、養鹿場のある食肉処理施設までの長距離輸送
 - ・長距離輸送による個体への影響評価（死亡率・肉質等）



4 実施結果

区分	輸送回数	輸送頭数	体調不良	死亡	肉質への影響
中川町 (H27)	2回	20頭	無	無	無
浦河町 (H28)	2回	3頭	無	無	無

5 評価

区分	評価
誘引	<ul style="list-style-type: none"> ・エゾシカ生息地と囲いわなの位置が離れている場合には、移動式エサ台等を使用するなど、状況に応じた誘引方法を講じることが必要 ・生息地域によりエゾシカの食性が異なることから、その食性に合ったエサの選択が必要
Stockヤード	<ul style="list-style-type: none"> ・Stockヤードの設置により、囲いわなの捕獲効率と輸送効率を上げることが可能
長距離輸送	<ul style="list-style-type: none"> ・エゾシカが興奮することによる事故の発生や他個体を負傷させるおそれがあるため、捕獲の際や積み込みの際には、興奮させないような対応が必要
費用	<ul style="list-style-type: none"> ・採算ラインを考慮し、継続的に事業を実施するには、Stockヤードを設置し、複数回におよぶ囲いわなでの捕獲個体を一度にできるだけ多く輸送することが必要 ・1回平均15頭以上の捕獲個体を輸送すると、Stockヤードの設置や維持管理の費用・輸送費用をまかなうことが可能 ・既有設備の活用や輸送経費削減など運用方法の工夫により、採算ラインを下げる事が可能 ・捕獲個体の廃棄のため、市町村が負担していた処理コストが不要となるだけでなく、食肉として価値の創出、新たな労務による雇用の発生など、様々な利点を有する

6 今後の対応

- ・エゾシカ地域連絡協議会の場やホームページへの掲載などにより、市町村や食肉処理施設等に事業成果を周知
- ・地域の事情に応じた効果的な捕獲等による有効活用について促進